

株式会社エコニクス

2010年7月発行

# 環境レポート2009

## ■エコニクスについて■

### CONTENTS

エコニクスについて	1
環境方針	2
ごあいさつ	2
環境管理体制と法規制の遵守	3
省資源・省エネルギー	4
環境配慮の取り組み	6
事業活動と環境影響	7

### お問い合わせ先

株式会社エコニクス 経営管理部  
TEL：011-807-6811（代表）  
FAX：011-807-6800  
E-mail：info@econixe.co.jp

### 会社概要

事業所  
本社：札幌市厚別区下野幌テクノパーク  
1丁目2番14  
別館：札幌市厚別区下野幌テクノパーク  
1丁目2番12号  
泊事業所：古宇郡泊村大字泊村照岸  
リサーチ ラボ：恵庭市相生町70  
研究開発室：北海道札幌市北区北21条西12丁  
目2北大ビジネス・スプリング  
101号室  
設立：1973年12月  
資本金：5,000万円  
代表者：代表取締役社長 伊藤 聡  
従業員数：67名（平成22年5月20日現在）  
関連会社：（株）沿海調査エンジニアリング

### 対象範囲

対象期間：2009年4月～2010年3月  
対象組織：株式会社エコニクスの全事業所

## ■事業内容■

### 海域環境分野

- ・ 海域測量
- ・ 物理・化学環境調査
- ・ 海生生物調査、同定、分析
- ・ 建設環境コンサルタント
- ・ 水産土木コンサルタント
- ・ 生物生息環境の解析、評価
- ・ 特命沿岸再生プロジェクト
- ・ 水産増養殖施設の設計、施工監理
- ・ 漁港施設の設計、施工監理

### 生活環境分野

- ・ 水環境調査（自然水、温泉水、水道水等）
- ・ 大気調査
- ・ 臭気調査
- ・ 騒音・振動調査
- ・ 土壌環境調査
- ・ 作業環境調査、室内環境調査

### 化学分析分野

- ・ 化学分析
- ・ 材料分析
- ・ 食品分析

### 陸域環境分野

- ・ 生物調査（陸上生物、水圏生物）
- ・ 水文観測、水底質調査
- ・ 生物生息環境の解析、評価
- ・ 環境教育アドバイザー
- ・ 生態系に配慮した施設計画、設計
- ・ 土木一般に関する調査、計画、設計、監理

### シンクタンク分野

- ・ 各種地域計画およびビジョンの策定
- ・ 社会資本整備の効果等に係わる調査、評価、分析
- ・ 環境ビジネスに関する調査
- ・ 地域振興策の企画立案
- ・ シンポジウムや委員会、環境学習等の企画、運営

### 技術開発・研究

- ・ ホルモン様活性スクリーニングシステムの開発
- ・ 機能性成分分析
- ・ 環境に関わる新技術の研究、開発  
（藻場造成、土壌汚染等の迅速分析、各種素材  
や製品に含まれる成分等の分析、石炭灰の有効  
利用、廃棄物等の有効利用 ほか）

# 環境方針

## 社の使命

水を基本とする自然と人間の共生する生態社会において、調和ある環境保全と利用開発を事業とし、社会に貢献する。

## 基本方針

エコニクスは、環境ナビゲーション企業※として環境に及ぼす有益な影響と負の影響を常に認識し、長期的な視野に立った生物多様性の保全とCO<sub>2</sub>削減にターゲットを絞った温暖化防止に関するパフォーマンスの向上を図り、循環型社会づくりに貢献する。

また、これらに関して、目的・目標を定め定期的に見直し、継続的改善を図る。

## 環境活動項目

基本方針の達成のために、以下の活動を推進する。

1. 環境デザイン人材の育成による環境分野のファーストコールカンパニーを目指す。
2. 環境情報を積極的に公開することにより、多くの人々と良好な連携を構築する。

※「環境ナビゲーション企業」とは、地球環境を監視・測定・評価し、あるべき生態系を計画・設計し、保全・再生・利用する健全環境への水先案内人という意味を表す。その水先案内人は、すなわち環境デザイン人材である。

この環境方針は、全社員ならびに関係組織へ周知し、法の順守はもとより環境に対する取り組みの理解と意識の向上に努める。

## ごあいさつ

わたくしたちエコニクスは、北海道の“環境ナビゲーション企業”として、環境の保護・法の遵守・お客様とのコミュニケーション・社会貢献活動の面でも社会に対する責任を果たすべく取り組んでおります。

特に温室効果ガス排出量の削減につきましては、現在、京都議定書における2008年から2012年までの第一約束期間として取り組まれておりますが、国連気候変動サミットにおいて日本は2020年までに1995年比25%の温室効果ガス削減の中期目標を「国際公約」として表明するなど、環境問題への取り組みがますます求められております。

弊社も事業を通じて環境へ貢献できる一方で、その活動に伴う省エネやCO<sub>2</sub>排出の抑制について取り組む必要があり、重点課題の一つと考えて活動してまいりました。

今後も、環境保全に積極的に取り組むとともに、環境方針に掲げましたとおり環境デザイン人材を育成し、豊かな社会づくりに貢献する企業を目指したいと考えております。

ここに2009年度の環境保全活動のまとめとして「環境レポート2009」を作成いたしました。弊社の環境への取り組みをご理解いただくとともに、忌憚りの無いご意見をお聞かせいただければ幸いです。

株式会社エコニクス  
代表取締役社長 伊藤 聡

# 環境管理体制と法規制の遵守

## ISO14001の認証取得

弊社では、持続可能な社会構築、環境活動推進のために環境マネジメントシステム(EMS)を実践しております。このシステムはPDCAサイクルで環境方針を実現し、環境保全のために継続的に改善していくものです。

弊社は1998年2月にISO14001の認証を取得し、今年の3月で12年目を迎え、4回目の更新審査を受けました。また、品質マネジメントシステム(QMS)のISO9001を、2002年2月に認証取得し、2003年からEMSとQMSのシステム統合を進めております。

審査登録機関および認証登録番号は次のとおりです。  
審査登録機関：BSI マネジメントシステム ジャパン 株式会社  
ISO14001 認証登録番号：EJ00012  
ISO9001 認証登録番号：QJ00061

## 環境監査の状況

弊社では、毎年1回の内部監査の実施と、外部審査を受審しております。2009年度の内部監査および外部審査において、EMSに関しては下表の指摘事項がありました。

外部審査では、組織の活性化および技術力の向上が期待される社内功労者への表彰制度「Challenge Person of the Year」についてグッドポイントをいただきました。しかしながら、薬品の在庫管理等の運用ならびに業務で使用する機器の管理方法について更なる改善の余地があるとして指摘を受けました。

今後は、不適合の発見および是正処置が迅速に行えるように、継続的改善に努めてまいります。なお、2009年度の外部審査において、前回審査で指摘された不適合の是正処置の完了が確認されました。

区分	グッドポイント	不適合	観察事項
内部監査	1	1	—
外部審査	1	2	6

## 環境法規制の遵守

弊社の事業活動に係る主な環境法規制は、廃棄物処理法、消防法、特定化学物質等障害予防規則、リサーチラボの恵庭市公共下水道条例などがあります。適用を受ける環境側面の管理は、それぞれの法規制において、管理基準や管理方法を定めるとともに、監視測定結果を定期的に報告することにしております。

監視測定結果については、これまでに法令違反はなく、遵守できております。

なお、弊社の事業活動に係る環境法規制の新設、改廃情報を毎月チェックしております。



## 緊急事態への対応

社内におきましては、事業所ごとに災害の避難訓練を実施しております。また業務で薬品を使用する従業員については、漏えい等の対処方法等に関する訓練を実施しております。

その他、本社および別館の従業員につきましては、札幌市防災センターにおいて災害の模擬体験や防災に関する知識、災害時の行動について学んでおります。

## EMS推進のための社内教育

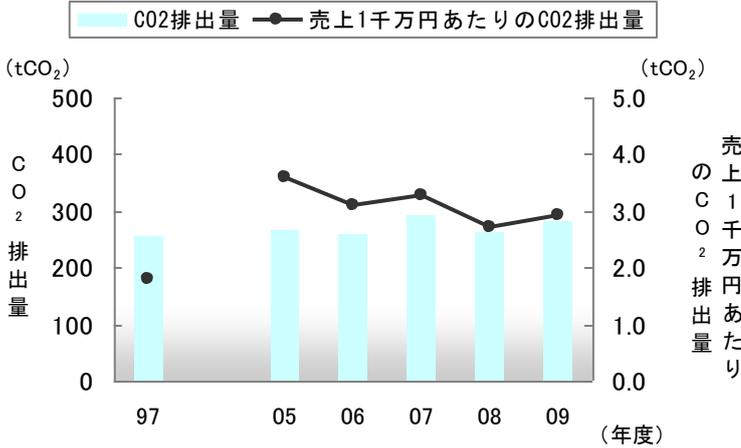
内部監査の強化を目的として、昨年度よりマネージャー以上の役職を対象に社内内部監査員研修を実施しております。また、EMSの属人化をなくすことを目的として、すべての部門を対象とした環境法規制の勉強会を実施し、日常の業務と法規制とのかわりを理解してもらう取り組みを行いました。

# 省資源・省エネルギー

以下のグラフは、弊社の事業活動により使用される資源やエネルギーの使用量、排出される廃棄物やCO<sub>2</sub>の排出量について、経年推移を項目毎にとりまとめたものです。基準年度はそれぞれ2005年度とし、2009年度のパフォーマンスと比較しております。また、1997年度につきましては弊社のEMSを構築した初年度のデータとして、ご参考までに掲載しております。

## ■ CO<sub>2</sub>排出量 ■

エネルギー使用におけるCO<sub>2</sub>排出量の推移(全社)



左記の棒グラフは、全社における電力、車輛燃料、暖房燃料の使用量から算出したCO<sub>2</sub>排出量を示しております。

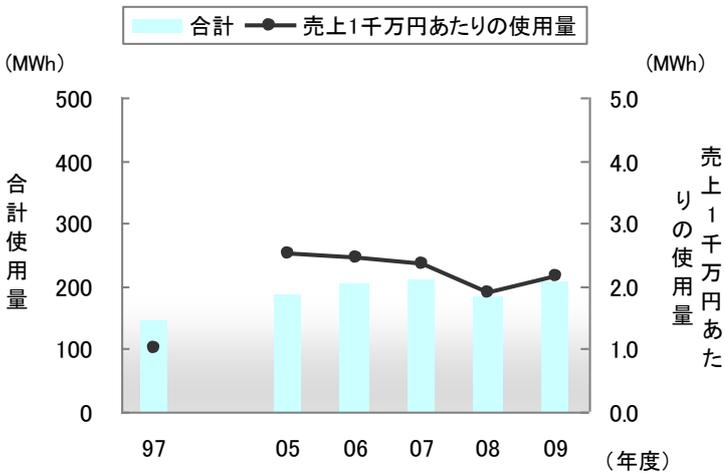
09年度の環境保全計画の「重点的に取り組む環境項目」では、廃棄物の排出量削減について重点的に取り組み、08年度に指定した電力および車両燃料使用量の削減については現状維持レベルの取り組みをしておりました。

その結果、09年度は基準年の05年度に比べ、CO<sub>2</sub>排出量は約16.8tCO<sub>2</sub>増加いたしましたが、売上1千万円あたりのCO<sub>2</sub>排出量は約0.7tCO<sub>2</sub>減少いたしました。

※CO<sub>2</sub>排出量は「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルVer2.4 平成21年3月 環境省・経済産業省」の排出係数を用いて算出いたしました。

## ■ 電力使用量 ■

電力使用量(全社)の推移

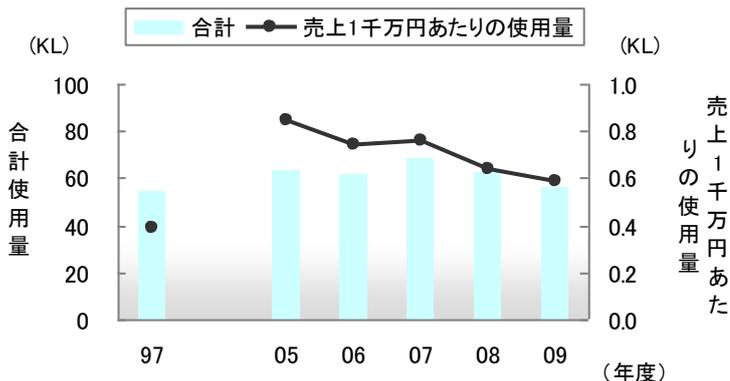


電力に関する取り組みとしましては、昨年度に引き続きCOOLBIZおよびWARMBIZのほか、毎月の使用量、CO<sub>2</sub>排出量の前年同月比データを社内に示し、省エネのコツや社内で気付いた点などとあわせて周知・啓発を行いました。

このように取り組みを進めました結果、09年度は05年度と比べ、全社における電力使用量は約21MWh増加いたしましたが、売上1千万円あたりの使用量につきましては約0.3MWhの減少となりました。

## ■ 車輛燃料使用量 ■

車輛燃料使用量(全社)の推移

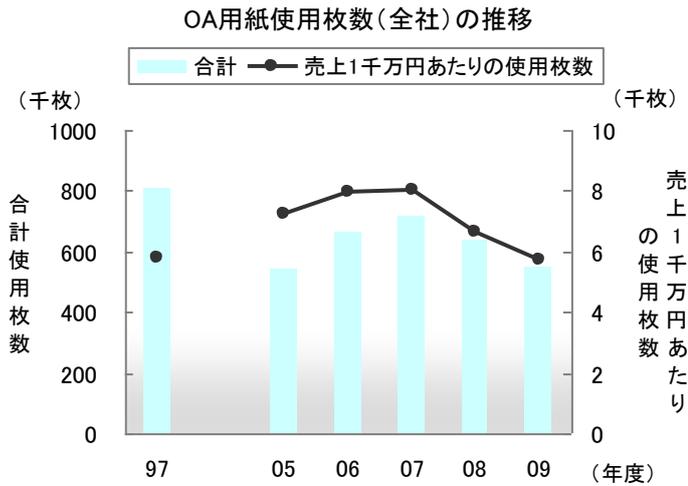


車輛燃料につきましても、電力と同様に毎月の使用量のデータ、またCO<sub>2</sub>排出量の前年同月比データを社内に示しました。

その結果、09年度は05年度に比べ、全社における使用量はガソリンと軽油合わせて7KLの減少、売上1千万円あたりの使用量につきましては0.2KLの減少となりました。



## OA用紙使用枚数

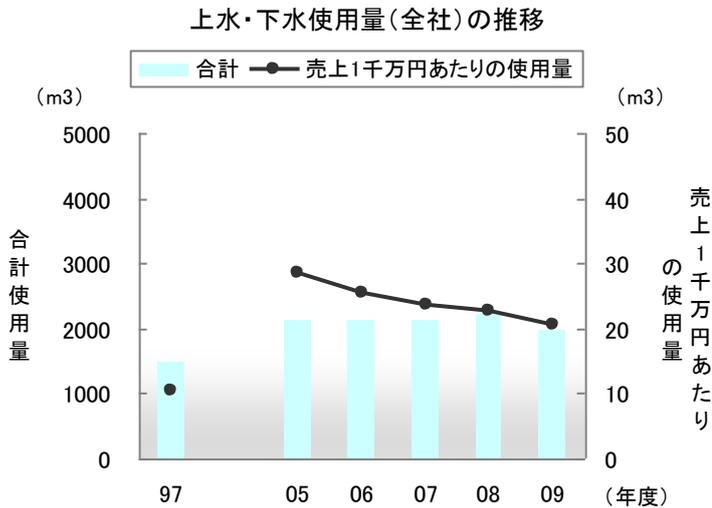


OA用紙につきましては、成果品の業務報告書等の両面印刷を積極的に行うなど、日常的に使用低減に努めております。

09年度の全社における使用枚数は、05年度に比べて10,000枚増加しましたが、売上1千万円あたりの使用枚数は05年度に比べて1,600枚の減少となりました。



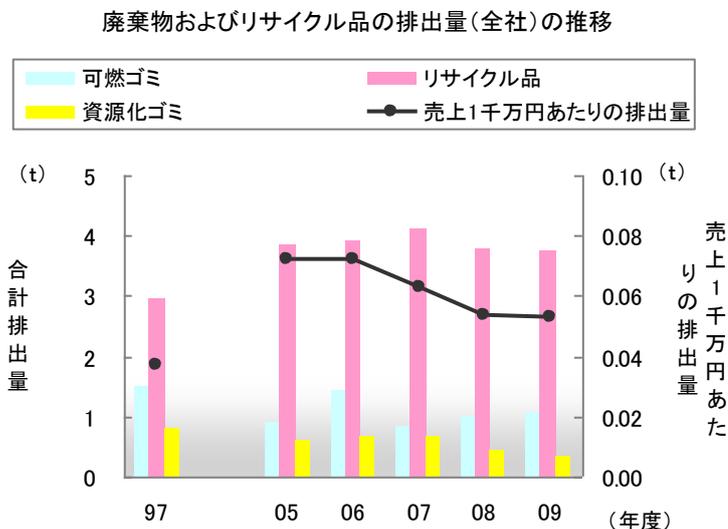
## 上水・下水使用量



上水・下水の全社使用量につきましては、09年度は05年度に比べ145m<sup>3</sup>減少いたしました。また、売上1千万円あたりの使用量は05年度に比べ8m<sup>3</sup>減少いたしました。



## 廃棄物排出量



廃棄物につきましては、昨年に引き続き本社・別館において札幌市の基準をもとに社内の分別案内の見直しや分別説明会の開催、計量・記録表の改訂による分別促進を実施いたしました。

こうした取り組みの結果、一般廃棄物(可燃ゴミ、資源化ゴミ)およびリサイクル品を合わせた排出量は、09年度は05年度に比べ全社で0.21t減少いたしました。また、売上1千万円あたりの排出量は05年度に比べ0.02t減少となっております。

今後も、さらなる分別の強化に向けて取り組みを続けてまいります。

## 環境配慮の取り組み

### ■エコクスの森林

弊社では1995年、創立22周年を機に「エコクスの森林」を60年契約で設立いたしました。当森林は奥定山溪の国有林内にあり、7.3haの広さがあります。設立の目的は、森林が果たす国土保全、水源涵養、生活環境の保全など公益的機能の重要性に鑑み、社会貢献として我が国の森林資源の維持増進に寄与するため国有林の分収育林制度を活用し「国民参加の森林づくり」を行うこと、そして自然環境の保全・形成や地域社会への貢献に加え、会員相互の親睦と緑化思想の高揚を図ることです。当森林の環境への貢献度に関しては、以下の通りとなっております。



■当森林における1年間のCO<sub>2</sub>吸収量：16tCO<sub>2</sub>\*<sup>1</sup>（1haあたり2.2tCO<sub>2</sub>）  
＝ヒト1人が1年間の呼吸で放出するCO<sub>2</sub>の約54人分\*<sup>2</sup>

■当森林における1年間の水質浄化量：2,774m<sup>3</sup>\*<sup>3</sup>  
＝2L入りペットボトルの138万7千本分



※1 (独)森林総合研究所の資料「森林の林木(幹・枝葉・根)が吸収する炭素の平均的な量」より、当森林に近い樹齢の中から5年間で吸収量が増加するケースの値を使用して算出いたしました。ただし森林の条件がまったく同じではないため、上記算出値は確実とはいえません。今後、1haあたりの炭素現存量の増加または減少の速度を測ることで、より高精度の値を算出できるものと考えております。

※2 北海道水産林務部森林計画課の資料を参考に算出

※3 北海道森林管理局の資料を引用

弊社は今後も、このように環境への貢献度の高い「エコクスの森林」を大切にし、活用してまいります。



### ■ザリガニウォッチングマラソンへの参加

弊社は今年から、北海道ザリガニシンポジウム実行委員会が主催するザリガニウォッチングマラソン

(通称ザリガニソン)に参加しております。これは、参加者が周辺地域に生息するザリガニを調査し、データを提供することによる環境への意識向上や環境保全を狙いとした活動です。今年6月に社員数名が弊社周辺で調査をしましたところ、日本固有種であるニホンザリガニが確認されました。ニホンザリガニは近年、外来種のウチダザリガニが増加した影響等によって個体数が減少しつつあります。こうした活動によって少しでも地域の生態系の保全に役立てられればという思いで、今後も参加していきたいと考えております。

(写真左：調査地の様子 右：確認されたザリガニ)

### ■モニタリングサイト1000への参加

環境省が平成15年度より進めているプロジェクト「モニタリングサイト1000」は、国土の自然環境の劣化を把握するために長期的な生態系のモニタリングを行っており、1000地点のうちの一つに弊社周辺の林地が認定され、年2回の鳥類調査を実施しております。2009年度につきましても、社内有志による鳥類調査(繁殖期および越冬期)を実施いたしました。

### ■エコニュースの発行

毎月、弊社技術者が環境に関する情報としてニュースレター「エコニュース」を執筆し、弊社ホームページにて公開しています。さまざまな専門分野を持つ技術者が集まる弊社ならではの環境関連情報がここで得られますので、ぜひご覧いただければと思います。

### ■環境イベントへの参加・協賛

弊社は環境にかかわるイベントへの協賛も行っております。2008年からは、年に1回開催される恵庭湖の水質浄化と水源地の保全を目的とした「えにわ湖慈しみフェスタ」について協賛金を拠出し、当日は希望する従業員で参加しております。昨年はダム湖周辺のクリーンアップの他、弊社の得意分野である植栽と水質調査の指導も担当いたしました。

また、昨年6月にはえりも町で開催された第60回北海道植樹祭に社を挙げて参加し、地元小学校の生徒さんと共同で記念植樹をいたしました。今後もこのようなイベントに積極的に参加してまいります。

